

編集後記

令和元年度のアニュアルレポートが完成しました。

新しい時代の始まりと、希望に胸を膨らませて迎えた年度でした。京都医療センターでも新しい出来事がいくつもありました。まず、7月に手術支援ロボット ダ・ヴィンチが最新機種であるXシステムに更新されました。これにより泌尿器科をはじめ、外科、婦人科、呼吸器外科で、より安全で確実なロボット手術ができるようになりました。11月には当院1階に患者支援センターを開設しました。従来、退院支援センター、診療受付、入院支援センター、がん相談、患者相談の各部門がバラバラにあったのを、すべて統合することができました。12月には3テスラのMR装置が導入されました。これにより同じ検査時間でより細かく、より鮮明な高画質の画像が得られるようになりました。高精度放射線治療棟の建設が完了し、令和2年3月23日から稼働を開始しました。強度変調放射線治療と画像誘導放射線治療が可能となり、高度がん治療センターとしてのさらなる進歩を遂げることができました。

例年通り、患者さん向けにいろいろなイベントや行事も開催しました。5月12日には「看護の日」記念行事、6月12日は「がんささえあいの日」イベント、7月18日にはサマーコンサート、10月23日には「ホスピス・緩和ケア週間」イベント、12月4日にはクリスマスコンサートを、(今では考えられないことですが)マスクをつけることなく開催しました。この頃は、まさか、今こんなことになっているとは思ってもいませんでした。

新型コロナウイルスが猛威を振るう令和2年、年の瀬に、私たちは、この編集後記を書いています。この一年は、コロナに始まり、コロナに翻弄された一年でした。令和2年1月30日に京都府で新型コロナウイルス感染患者が初めて確認され、京都にもコロナの陰が迫ってきたことが実感されました。京都医療センターでは、2月17日に新型コロナウイルス感染症対策院内会議を開催、3月2日に帰国者接触者外来を開設、3月10日には新型コロナウイルス感染症対策本部を発足させた後、今まで、50回に及ぶ対策本部会議の開催し、次々に起こる課題に対処してきました。コロナ感染症は来年も続くでしょうが、嵐は必ず通り過ぎますし、コロナに打ち勝つ光も見えています。

今回、B.C. (Before Corona) の最後のアニュアルレポートをお届けします。来年の今頃にはA.C. (After Corona) の時代となる事を願い、今年一年、京都医療センター職員一同が、どのように奮闘したかを示すアニュアルレポートをお届けできるよう前を向いて取り組んでまいります。これからも京都医療センターをよろしく願い申しあげます。

広報委員会

瀬田公一 地域医療部長

塚原徹也 副院長